

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科目名	単位数	時間	開講時期	担当講師		
看護学概論Ⅰ	1	30	1年生 前期・後期	小林 明美（専任教員:看護師）		
科目のねらい	<p>看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学び、専門職としての看護実践に必要な基本的姿勢・考え方を看護と看護学を概観し、専門職としての看護実践活動に必要な基本的姿勢・考え方を学ぶ。</p> <p>看護の歴史の変遷と様々な理論家による看護のとらえ方、職能団体による看護の定義、看護の対象としての人間と健康について学ぶことで、看護の本質である「看護とは何か」、「看護師とはどのような職業か」を考えることができる態度を養う。また、保健・医療・福祉チームにおける看護活動の概要と看護の果たす役割について学び、看護のキャリア開発と看護の発展についても考えていく。</p>					
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護技術の概念を知り、意義を理解する。 2 看護と人間の関わりや看護の定義から看護についての考え方を理解し、看護の本質とは何かについて考える。 3 看護の対象である人間を統合的にとらえるための視点を理解する。 4 健康の概念と健康観の変遷を学び、健康と環境、生活との関係について理解する。 5 国民の抱えている健康課題と現代社会における家族の特徴を理解する。 6 専門職業としての看護職の発展過程と、これからの看護の課題について理解する。 7 看護基礎教育と免許取得後の継続教育の概要を理解し、看護職者としてのキャリア開発について考えられる。 8 看護活動の特徴について理解する。 9 看護サービス提供の場の特徴と保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解する。 					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 看護技術の概念	1 看護とは、看護技術とは 2 看護技術の特徴 3 看護技術の基本原則 4 看護技術の構成			2	講義	小林
2 看護の概念	1 看護とは何か (1)看護の変遷 ①看護の原点 ②看護の歴史 (2)看護の定義 (3)看護の役割と機能			6	講義 演習	小林
3 看護の対象としての人間と健康	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護の対象である人間のとらえ方 (1)統合体としての人間(身体的・精神的・社会的) (2)人間と欲求 (3)生涯発達し続ける存在としての人間 (4)生活者としての人間 (5)看護の対象である家族・集団・地域 2 ヘンダーソンの看護観 (1)看護の基本となる4つの基本概念 (2)看護の基本的構成要素 3 健康とは (1)WHOの概念とその解釈 (2)健康と病気のとらえ方 ①健康の定義 ②社会の変遷と健康観の変化 ③健康の捉え方と国民の健康状態 (3)健康と環境 ①環境とは:内部環境と外部環境 ②環境と健康との関係 (4)生活と健康 ①生活習慣とセルフケア ②ヘルスプロモーション 4 国民の健康課題と現代の家族 (1)国民の健康状態 (2)ライフサイクルと健康・生活 (3)現代社会における国民の健康課題 			9	講義 演習	小林
4 職業としての看護	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護職に求められる倫理 (1)患者の基本的権利 (2)看護職の倫理綱領 2 職業としての看護のはじまり (1)看護の歴史 (2)看護職の資格と養成にかかわる制度 ①保健師助産師看護師法 ②看護基礎教育 			10	講義 演習	小林

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

5 看護活動と看護職の役割	<p>3 看護職のキャリア開発 (1) 継続教育 専門看護師、認定看護師、認定看護管理者 ※目指す看護師増を文章化する</p> <p>1 看護の提供のしくみ (1) サービスとしての看護の特徴 (2) 看護実践における対人関係の重要性 (3) 看護実践と看護過程</p> <p>2 保健・医療・福祉チームと看護職の役割 (1) 看護サービス提供の場 (2) 保健医療福祉チームにおける協働と看護の役割</p>	2	講義	小林
評価方法	筆記試験(100点)			
使用テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕「看護学概論」医学書院 F. ナイチンゲール:看護覚え書き 第7版、現代社、2017 V. ヘンダーソン:看護の基本となるもの 再新装版、日本看護協会出版会、2016 川島みどり:新訂 キラリ看護 医学書院、2008</p>			
備考	講義以外に、グループワークで文献や事例をとおして授業を展開していく。			

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
生活環境調整技術	1	15	1年生前期	片山 陽子（専任教員:看護師）		
科目のねらい	健康の維持・回復のために生活環境、療養環境を整える必要性と看護の役割を学び、援助の方法を習得する。					
目 標	1 健康の維持・疾病の回復のために、療養環境の果たす役割を理解する。 2 療養環境調整の重要性を理解し、適切な援助方法を習得する。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 療養環境を整える技術	1 人間と環境の関わり (1)人と環境 (2)療養生活の環境(病院、施設、自宅) 2 療養環境のアセスメントと調節 (1)療養生活の環境を構成する要素 ・大気 ・室内気候 ・採光 ・色彩 ・騒音 ・病室の構成、病床の種類 ・病棟の構造 ・人的環境 3 援助の実際 ・ベッドメイキング ・就床患者のリネン交換 ・安全なベッド周囲の環境整備 演習内容:ベッドメイキング、臥床患者のリネン交換、環境整備			14	講義 演習	片山
評 価 方 法	筆記試験(100点)					
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学[3]「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 「看護がみえる①基礎看護技術」メディックメディア 参考文献 「看護覚え書」第7版 F.ナイチンゲール 現代社 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン 湯槇ます・小玉香津子訳					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科目名	単位数	時間	開講時期	担当講師		
清潔・衣生活の援助技術	1	30	1年生前期	片山 陽子（専任教員:看護師）		
科目のねらい	人間の健康にとっての清潔・衣生活の意義と、アセスメントに必要な知識を理解する。日常生活を整える清潔・衣生活の援助技術を習得する。					
目 標	1 人間の基本的欲求としての清潔、人間の健康にとって清潔を保つ意義を理解する。 2 清潔の援助技術の目的・留意点・方法を知り、身体各部位の清潔援助の方法を理解する。 3 人間の健康にとって衣生活を整える意義を理解する。 4 安全・安楽・自立の視点で清潔・衣生活の援助方法を習得する。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 清潔	1 清潔を整える援助の基礎知識 (1)健康にとって清潔の意義 ①皮膚の構造と機能 ②清潔援助の意義 (2)清潔の援助の目的と方法 ①清潔援助の留意点とポイント ②援助を受ける患者の心理 ③全身の清潔援助 ・入浴・シャワー浴等の援助 ・全身清拭 ④身体各部位の清潔援助 ・洗髪 ・手浴 ・足浴 ・陰部洗浄 ・口腔ケア ・整容 など			29	講義 演習	片山
2 衣生活	2 衣生活を整える援助の基礎知識 (1)衣服を用いることの意義 (2)病衣の選び方 (3)寝衣交換の援助の目的と方法 技術演習: 洗髪、足浴、清拭(石けん使用)・寝衣交換、陰部洗浄					
評 価 方 法	筆記試験(70点)、夏休み課題レポート(10点)、総合演習点(20点)/100点					
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 「看護がみえる①基礎看護技術」メディックメディア					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師
フィジカルアセスメント 技術	1	30	1年生 前期・後期	片山 陽子（専任教員:看護師） 杉浦 理彩（専任教員:看護師）
科目のねらい	看護判断の根拠となる対象の身体状況全体を客観的かつ系統的に把握する方法を学習し、フィジカルアセスメントのための知識と技術を習得する。			
目 標	1 フィジカルアセスメントの概念を知り、看護実践における意義を理解する。 2 フィジカルアセスメントに必要な診査技術を理解する。 3 全身および身体各部の診察のポイントと方法を知る。 4 体温調節の機能と変動因子を理解し、測定方法を習得する。 5 体温の正常・異常を理解する。 6 体温の異常による全身への影響を理解する。 7 循環に関する観察の視点を知り、正常・異常を判断する。 8 脈拍・血圧の測定方法を知り、正常・異常を判断する。 9 呼吸に関する観察の視点を知り、正常・異常を判断する。 10 意識・認識に関連する身体や行動変化の観察の視点を知り、正常・異常を判断する。 11 脳神経の見方を知り、異常を判断する。 12 四肢の運動機能の観察点を知り、正常・異常を判断する。 13 フィジカルイグザミネーションができる。 14 フィジカルアセスメントを実施し、記録・報告ができる。			
単 元 名	教 育 内 容	時間数	方 法	担当講師
1 フィジカルアセスメントの概念	1 フィジカルアセスメントとは 2 看護における意義 3 観察の技術 4 面接・問診の技術 5 身体診査の技術	2	講義 演習	片山
2 全身の見方	1 全身的所見 ①発育・栄養状態・肥満度 ②気分・表情 ③意識・精神状態 ④体位・歩行 ⑤浮腫・感覚異常・疼痛 2 身体各部 ①皮膚・頭髮 ②指・爪 ③瞳孔 ④口腔内 ⑤頸部 ⑥胸部 ⑦腹部 ⑧四肢	6	講義 演習	片山
3 生命維持に関するアセスメント	1 体温 (1)体温調節のしくみ (2)体温の異常 (3)体温の測定 2 循環 (1)観察の視点 (2)脈拍の触知 (3)血圧 (4)心音の聴取 3 呼吸 (1)観察の視点 (2)呼吸の正常と異常 (3)呼吸音	12	講義 演習	杉浦
4 意識・認識に関するアセスメント	1 意識・認識 (1)観察の視点 (2)言語障害・失行・失認 (3)視力・視野	4	講義 演習	杉浦
5 運動機能に関するアセスメント	1 運動機能 (1)観察点 ①麻痺・知覚異常 ②筋力 ③筋萎縮・筋硬直 ④不随意運動 ⑤関節可動域 ⑥深部腱反射 ⑦姿勢・歩行 ⑧小脳機能の評価	4	講義 演習	片山
6 総合演習	1 フィジカルイグザミネーションの実施 (1)バイタルサイン測定 (2)呼吸音・心音聴取 (3)瞳孔の観察 2 報告・記録の実施	1	講義 演習	杉浦
評 価 方 法	筆記試験(単元1、2、5:30点、単元3、4:60点)、総合演習点(10点)/100点			
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座「基礎看護学技術Ⅰ」医学書院 「看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント」メディックメディア			

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
地域・在宅看護論Ⅰ	1	15	1年生前期	藤木 みさお（専任教員：看護師）		
科目のねらい	年齢、疾病の有無に関わらず、地域で生活する人々とその家族の暮らしが健康に与える影響を理解し、地域・在宅看護の概念や看護の役割について学ぶ。					
目 標	1 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響について説明できる。 2 地域・在宅看護の概念と対象について説明できる。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 暮らしと健康	1 暮らすということ (1)出生から最期の時まで 2 支え合って生きるとは (1)つながる人々と支え合い (2)災害への備え 3 地域の生活環境が健康に与える影響 (1)文化的環境 (2)社会的環境 (3)自然環境			14	講義 演習	藤木
2 地域で生活する人々への看護	1 地域・在宅看護の背景 (1)年齢・疾病構造の変化 (2)医療の進歩 (3)国民の価値観 (4)地域・在宅看護とは (5)在宅看護の変遷 2 地域・在宅看護の対象 (1)法制度からみる対象 (2)発達段階からみる対象 (3)健康レベルからみる対象 (4)健康課題からみる対象 (5)地域・在宅看護における家族の支援					
評 価 方 法	筆記試験(100点)					
使 用 テ キ ス ト	ナーシング・グラフィカ 地域医療を支えるケア 在宅看護論 メディカ出版					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科目名	単位数	時間	開講時期	担当講師		
成人看護学概論	1	30	1年生 前期・後期	三浦 環（専任教員:看護師）		
科目のねらい	成人各期の特徴と発達課題を理解し、成人看護の目的と役割を学ぶ。 また、成人期の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護の特徴および成人への看護の基盤となる理論について学ぶ。					
目 標	1 成人期の特徴を理解する。 2 成人にとって健康の意味と健康に及ぼす要因を理解する。 3 成人の健康問題を理解する。 4 さまざまな健康状態にある対象の特徴を知り、健康状態に応じた看護の特徴を理解する。 5 成人期にある対象の看護をするために必要な理論や概念を理解する。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 成人の特徴	1 成人とは、大人とは 2 成人期の成長発達の特徴 (1)各発達段階の特徴 ①青年期 ②壮年期・中年期 ③向老期 (2)各期の健康問題 3 成人の生活 (1)生活様式 (2)職業生活・学業生活 (3)家庭生活			5	講義	三浦
2 成人の健康問題の特徴	1 健康とは 2 成人を取り巻く環境と生活状況 (1)成人を取り巻く環境 (2)ライフスタイルの特徴 3 成人の健康の状況 4 保健・医療・福祉システムの概要 5 生活習慣に関連する健康障害 (1)生活習慣病の要因 (2)健康問題の現状と推移 6 職業に関連する健康障害 (1)就労条件・環境と疾病との関係 (2)職業性疾患の発生状況と予防 7 ストレスに関連する健康障害			8	講義	
3 成人の健康レベルに応じた看護の特徴	1 健康の維持、疾病予防が必要な対象への看護の特徴 (1)ヘルスプロモーションとは (2)ヘルスプロモーションを促進する看護 2 治療を必要とする対象の看護の特徴 (急性期・慢性期・回復期) 3 生活の再構築への支援を必要としている対象への看護の特徴 4 終末期の援助を必要としている対象への看護の特徴 5 健康レベルからみた成人の特徴			10	講義 演習	
4 成人への看護アプローチの基本	1 大人の学習の特徴 (1)アンドラゴジー 2 意志決定支援 (1)意志決定とは (2)意志決定プロセスにおける看護師の役割 3 変化する健康状態への適応を促す理論や概念 (1)病みの軌跡 (2)ストレスとコーピング (3)セルフケア理論 4 行動変容を促進する看護アプローチ (1)自己効力理論			6	講義	
評 価 方 法	レポート(10点) 筆記試験(90点)/(100点)					
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座 専門「成人看護学総論」成人看護学① 医学書院 「看護が見える⑤対象理解Ⅰ」メディックメディア 厚生労働統計協会:国民衛生の動向 2024 /2025					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
成人看護学援助論Ⅰ	1	30	2年生 前期	片山 陽子（専任教員:看護師） 三浦 環（専任教員:看護師） 川上 恵（市立旭川病院:看護師）		
科目のねらい	慢性疾患をもちながら生活する対象の理解と生活調整し適応促進するための看護を学ぶ。					
目 標	1 慢性疾患がある患者と家族の特徴を理解する。 2 慢性疾患の治療と看護の基本 3 糖代謝障害のある対象に必要な生活調整、悪化予防のための援助方法を理解する。 4 肝機能に不可逆性の障害を持つ対象に必要な生活調整、悪化防止のための援助方法を理解する。 5 生活調整が必要な成人期の対象の看護過程の展開がわかる。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 生活調整し適応促進するための看護	1 慢性疾患がある患者と家族の特徴と看護の基本 (1) 慢性疾患と治療の特徴 (2) 患者、家族の特徴 (3) 対象をとりまく療養環境の特徴 (4) 対象にかかわる専門職とチーム医療			4	講義	片山
2 慢性疾患をもつ対象への看護	1 糖代謝機能障害を有する対象の看護 【糖尿病患者の看護】 (1) 病気の経過と治療・検査に伴う看護 ①食事療法 ②運動療法 ③薬物療法 (2) 身体的・心理的・社会的特徴 (3) 患者、家族への援助 ①症状マネジメント ②セルフモニタリング ③心理・社会的支援 (4) 退院支援 ①療養生活に必要な知識と技術 ②SMBG(血糖自己測定)の実際 (簡易血糖測定法による自己血糖測定を行う) 2 肝機能障害をもつ対象への看護 【肝炎・肝硬変・肝がん患者の看護】 (1) 病気の進行と治療・検査に伴う看護 ①安静療法 ②食事療法 ③薬物療法 ④肝がんの治療 ⑤その他 (2) 身体的・心理的・社会的特徴 (3) 患者、家族への援助 ①症状マネジメント ②セルフモニタリング ③心理・社会的支援			7	講義 演習	三浦
3 生活調整し適応促進するために必要な看護技術	1 看護過程の展開 ・糖尿病患者の看護過程の展開を行い、療養生活に必要な指導を行う。			6	講義	川上
				12	講義 演習	片山
評 価 方 法	学院講師担当分:筆記試験60点(単元1:25点、単元2-1:35点) レポート25点(看護過程20点) 外部講師担当分:筆記試験20点					
使 用 テ キ ス ト	共通:ナーシンググラフィカ「成人看護学③セルフマネージメント」メディカ出版 単元2-1:系統看護学講座 専門10『成人看護学6 内分泌・代謝』医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会編 文光堂 単元2-2:系統看護学講座 専門9『成人看護学5 消化器』医学書院 単元3:「看護過程に沿った対症看護」学研 「疾患別看護過程の展開」学研					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
老年看護学概論	1	30	1年生 前期・後期	水野 弥美（専任教員:看護師）		
科目のねらい	1 加齢に伴う変化と高齢者の健康のとらえ方が理解できる。 2 高齢者の生活の特徴が理解できる。 3 老年看護の機能と役割が理解できる。 4 わが国における高齢者に関する保健医療福祉の現状と課題が理解できる。					
目 標	1 老年期の位置と老年看護の意義を理解する。 2 加齢による変化および加齢に伴う高齢者の生活の変化と健康を維持するための生活の視点について理解する。 3 高齢社会の現状が理解できる。 4 高齢者保健医療福祉施策が理解できる。 5 高齢社会における課題と対策が理解できる。 6 老年看護の理念が、生活志向の看護であることを理解する 7 老年期の対象を支える看護の機能と役割を理解する。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 老年看護の対象と家族	1 老年期とは (1)老いるということ (2)老いを生きるということ ・老年期の発達課題 2 高齢者と家族の特徴			6	講義 演習	水野
2 高齢者の生活と健康	1 老化とは (1)身体的変化(※高齢者体験) (2)心理的变化 (3)社会的変化 2 老年期の健康と生活 (1)高齢者の健康意識 (2)生活時間の変化 (3)就労・生涯学習			10	講義 演習	
3 老年保健の動向と対策	1 我が国における人口高齢化の特徴 (1)高齢化と高齢社会 (2)高齢化の要因 2 保健医療福祉の動向 3 高齢者介護の問題 4 高齢者の権利擁護 5 高齢者虐待			7	講義	
4 老年看護の理念	1 老年看護の理念 (1)高齢者のQOL (2)生活志向の看護とは 2 老年看護の意義 3 老年看護の機能と役割 4 高齢者と医療安全			6	講義	
評 価 方 法	レポート(10点) 筆記試験(90点)/(100点)					
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座 専門Ⅱ「老年看護学」医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ「老年看護 病態・疾病論」医学書院 国民衛生の動向 2024/2025:厚生労働統計協会					

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

科 目 名	単位数	時 間	開講時期	担 当 講 師		
小児看護学概論	1	15	2年生 前期	上村 馨子（専任教員:看護師）		
科目のねらい	1 小児各期の特徴を理解し、小児看護の機能と役割を学ぶ。 2 小児の健康に関わる諸問題をとらえ、小児保健医療福祉の動向を理解する。					
目 標	1 子どもの特徴を理解する。 2 小児看護の特徴を理解する。 3 小児の健康問題をとらえ、小児を取り巻く諸制度を理解する。					
単 元 名	教 育 内 容			時間数	方 法	担当講師
1 小児看護の対象	1 子どもの概念 (1)小児看護の対象と目標 (2)小児看護の機能と役割 2 小児保健に関する諸統計と世界の動向 3 小児看護の変遷と課題			4	講義	上村
2 小児看護の特徴	1 子どもの発達課題と発達理論 (1)エリクソン (2)ピアジェ (3)ポウルヴィ (4)マラー (5)子どもにとっての家族と家族理論			6	講義	
3 小児保健・福祉の動向	1 小児看護における倫理 (1)子どもの権利 (2)小児看護における倫理的配慮 2 小児における保健行政と保健事業 (1)児童福祉、母子保健、医療費支援、予防接種、学校保健 (2)食育、特別支援教育、臓器移植			4	講義	
評 価 方 法	筆記試験 100点					
使 用 テ キ ス ト	系統看護学講座 専門 小児看護学[1] 小児看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 小児臨床看護総論 医学書院					